

センターだより

きゅと!

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

子どもたちの目標

- 「規則的な生活と元気な体づくり」
- 「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
- 「自分のことは自分でする」
- 「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
- 「知らない所でもなじむことができる」
- 「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
- 「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」



9月の予定

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 13日(金) 太子講 10:30～ | 23日(月・祝) 秋分の日 |
| 14日(土) 運動会①(ゆき・ほし・うみ) | 28日(土) 休園 |
| 16日(月・祝) 敬老の日 | 30日(月) 避難訓練 10:20～ |
| 21日(土) 運動会②(にじ・そら・はな・つき) | |

おしらせ

○実習生が来ます クラスに入りましたら、よろしくお願いたします。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 8/21(月)～9/24(火) | 関西福祉科学大学 (社会福祉士) 2名 |
| 8/22(月)～9/22(金) | 関西福祉科学大学 (社会福祉士) 1名 |
| 9/4(水)～9/18(水) | 畿央大学 (保育士) 1名 |
| 9/30(月)～10/11(金) | 南海福祉看護専門学校 (保育士) 1名 |



○大阪 880 万人訓練について

9月3日(火) 15:00～大阪府では「災害が起こったときに、様々な情報源から地震・津波情報を認識し、地震・津波発生時に行動ができるようにすること」を目的に、「大阪880万人訓練」が実施されます。例年、当センターでは園児と職員で参加しておりますが、今年度は降園後の時間となりますので、職員のみ訓練に参加致します。

子どもたちには、8月26日の避難訓練の際に、防災頭巾を実際にかぶって地震を想定した避難訓練に参加して頂きました。



○運動会について



9月は運動会を実施いたします。4月から取り組んできた事を普段とは違う状況で取り組む形となる為、お子さんも緊張されるかもしれませんが、一人ひとりのペースに合わせて取り組んでいきたいと考えています。保護者の皆様は、お子さんの一生懸命頑張る姿を応援していただきますようお願いいたします。

観覧スペースが限られているため、ご参加頂ける方を園児お一人につき大人2名までとさせていただきます。ごきょうだいの制限はありません。ご理解ご協力をお願い致します。

○台風接近に伴う対応について

台風は8～9月にかけて発生し、日本列島に接近する回数が多いです。地震と共に台風に対する災害への備えについてもご家族で話し合っておくとよいですね。

当センターにおける「台風接近に伴う対応」については8/28(水)にコードモンにて配信させて頂きました。ご確認をお願い致します。

また、それ以外の災害等に関する対応については、ご入園の際にお配りしております「入園のしおり」に記載しておりますので、ご確認をお願い致します。



「4つの視点」

訪問支援 作業療法士 今村



まだまだ暑い日々が続いていますが、9月となり、次年度の進路について考える時期となりました。どのような視点で進路を考えればよいのか、悩まれている保護者の方も多いのではないのでしょうか。今回のぎゅっとでは、地域の園・学校と児童発達支援センター（以下センター）との違いを中心に例えを挙げ、4つの視点を記載しています。進路について考える際の参考にいただければと思います。

① “人”

考えておられる進路先にはどんな人がいますか？



クラスのお友だち、園・学校の同級生、担任の先生、担任以外の先生、同じクラスの保護者の方等など、様々な人と様々な形で接点を持つこととなります。センターよりも1クラスの人数やクラス数の多い園・学校が多く、たくさんのお子さんと一緒に、遊びや学習場面を過ごすようになります。異年齢のお子さんに関わる場面も多々あります。逆に関わる大人の数は今よりも少なくなり、1~2人の担任の先生と過ごすようになります。先生との関わりは集団が主であり、先生方は子ども集団の中で展開される遊びややりとりを、基本的には見守りの姿勢で対応されています。このように様々なお子さんとの接点が増える一方、大人との接点が減るという点が、センターとの大きな違いとなります。同年代の子ども同士でのやりとりを楽しみたいお子さんもいれば、大人とのやりとりの方が安心感を持って過ごせるお子さんもいます。接点を持つ“人”とどのように過ごしているか、お子さんの様子をよく観察してみてください。



② “場所・場面”

どんな環境でどのような保育・教育を提供されていますか？

家からの距離、建物の大きさや教室の広さ、園庭や校庭にある遊具など、直接触れて確かめることができる場所は、それぞれの違いを比較しやすいですね。ここでもう一つ大切にしたい事が、その“場所”で行われる“場面”を確認する事です。例えば、トイレ（場所）で排泄をする場面では、一つずつ仕切られたトイレを怖いと感じトイレに行けないかもしれません。トイレスリッパに戸惑い裸足で入るかもしれません。クラス全員でトイレに向かう事で順番が待てないかもしれません。場所が異なると場面は変化してしまいます。もしかすると、今までできていたことができなくなる事もあるかもしれません。全ての場面を確認する事はできませんが、実際の場所を見ながらそこで行われる場面を想像し、お子さんがどんな風に行動できるのかという視点でも確認してみてください。

また、それぞれの園・学校では行事に向けて時間をかけて取り組まれています。園・学校によって内容が異なるため、行事場面も可能な限り確認するようにし、そこに参加しているお子さんを想像するようにしてみてください。



③ “物”

使ったことの無い物はありませんか？



園・学校生活場面を確認した時に、具体的にどんな物を使っているのかも確認してみてください。知らない物はお子さんにとってどうして良いのか分からないものです。例えばタオルをフックに引っ掛ける、水筒のコップにお茶を注ぐなどセンターでは経験しない物の操作がたくさんあります。入園・入学時点でできていなくても、周囲の様子を見て、先生に教えてもらって、と入園されてからも練習はできるので焦る必要はありません。まずは、どんな物を使っているのかを知り、お家で使ってみてください。そうしてお子さんの「これ知ってる!」「これやったことある」を増やしてあげてください。物に関しては、保護者の方が状況を把握できていることが大切です。お子さんが扱いづらい物に対して、代替え手段やお手伝い方法などを検討していく事が大切だからです。何気なく見学していると見落としやすい“物”もぜひ確認するようにしてみてください。



④ “時”



園・学校生活の“時”とは？



一日の流れ、1週間の生活リズム、季節毎の行事。園や学校生活は、日々を積み重ね、1年を通して育みを進めていきます。この為、年度初めと年度末では求められる内容が変化していきます。センターでは個別目標に向けての取り組みが主軸となりますが、園・学校では各学年（年齢）で求められる目標や課題に向けての取り組みが主軸となります。お子さんの状況に合わせた指示が減り、低年齢でできていた行動が年長クラスになった時に、周囲と同じタイミングではできなくなるかもしれません。また今はできていない事でも、園・学校生活の中で積み重ねていく事で一人でできるようになるかもしれません。今だけでなく、少し先の未来を想像し、お子さんが成長されている様子もしくは困っている様子も進路を考える1つの視点としてみていただければと思います。



4つの視点と言いつつ…

追加の視点として、保護者の方やご兄弟（ご家族）からの視点も確認してみてください。例えば送迎の時に、下のご兄弟を連れて遠方の園に通う事はかなり負担がかかります。お仕事を考えられている保護者の方にとって保育時間幅は重要なポイントです。お子さんが安心してまた楽しく園・学校生活を過ごすにはご家族の協力が必須です。誰かが無理をしすぎると別の課題が生じてしまうこともあります。ご家族の視点もぜひ確認してみてください。

良い・悪い、できる・できない等での判断だけでは、進路を選ぶ事は難しくなります。様々な角度から具体的に考えることで、入園・入学した後のイメージが持ちやすくなり、次の進路を選びやすくなるのではないのでしょうか。お子さんにとってもご家族にとっても大切な選択となります。ゆっくりじっくりと悩み、考え、進路を選んでください。情報が足りない時、考えが整理できない時等にはぜひ職員にご相談ください。皆様の悩みを少しでも軽くできると幸いです。



参考文献：保育・学校生活の作業療法サポートガイド